

《ご報告》

{東日本大震災復興を願って} 第二回 鎌倉アート・クラフト市



{東日本大震災復興を願って} 第二回鎌倉アート・クラフト市が、11/26(土)27(日)の二日間、鎌倉 鶴ヶ岡会館第2ビル1Fにて開催、穏やかなお天気に恵まれ、多くの方々にお越しただき無事終了致しました。(また当初予定しておりました開催場所の変更に伴い、音楽家による支援ライブは見送らせて頂きました。)



今回ご出品下さった、物づくりアーティストの方々には総勢32名、季節柄クリスマスにちなむきらきらと夢のある作品や、ふわふわと暖かい毛糸を使った作品などが多く見られました。



また、当日にエントリー作品を追加し、更に多くを会場に並べて下さる出品者の方や、初日に訪れた方が、今からでも出品できますかとお声を掛けて下さり、翌日の朝に手作りのキャンドルをたくさん持ってきて下さる方など、会場にまた暖かな灯りをともしていただいたような、そんな心温まるエピソードもありました。



被災地の仮設住宅で暮らしている女性達の手作りの品や、障害を持つ方々の手作りの品、被災地の雇用創出のためのプロジェクト食品なども並びました。(売上げは、それぞれに直接還元されます。)



出品下さった手作り作品のひとつひとつは、制作者の手間と時間と心が詰まった宝物です。ご来場下さいました皆さまが、そんなぬくもりのある手作り作品とふれあい、和やかな楽しい時間を過ごしてただけました事を願っております。



また販売につながらず持ち帰っていただいた作品も、会場を飾り、来場された方々の目を楽しませて下さった、鎌倉アート・クラフト市の大切な主役たちである事には変わりありません。そんな作品の一つ一つにも心より感謝申し上げます。



ご来場下さいました方々、ご出品下さいました方々、そしてご協力&お手伝い下さいました多くの皆さまに、心よりお礼申し上げます。皆様の笑顔♥&エネルギーが、被災地の復興へとつながる事を願い、ご挨拶とさせていただきます。



<後援>

(社)鎌倉市観光協会
鎌倉市教育委員会

<協力>

鶴ヶ岡会館	松岡社長	開催場所提供
鶴ヶ岡会館	高木専務	アドバイザー及び会計監査
鶴ヶ岡会館	葛西部長	アドバイザー及び会場設備
鶴ヶ岡会館	松岡マネージャー	アドバイザー及び会場設備
デコレーター	岩田恵	アドバイザー及び広報・後援手続き等
防災機器エンゾニア	河合宏宣	会計 管理
書家	和田祐美子	鎌倉アート・クラフト市の書&デザイン
陶彩館	佐藤達郎	チラシ宣伝及び配布等

<会場お手伝い>

岩田恵 神谷陽子 室田孝代 鈴木順子
木村清美 清水路子 田中ちえ 小川ひろ 蝶や
河合宏宣 岩田杏

<会計監査報告>

12月5日（月）、鶴ヶ岡会館2階フロアにて、
鶴ヶ岡会館高木専務様に会計監査をお願い致しました。
全収益金は下記の金額に相違ない事を確認していただきました。

バザー	¥229,070-
募金箱(1)	¥14,130-
<u>合計金額</u>	<u>¥243,200-</u>

話し合いの結果、純収益金全額を
東日本大震災による震災孤児等への支援の為の寄附口座
「東日本大震災ふくしまこども寄附金」
に
寄附させていただきました。

内訳は以下の通りです：

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」(送金手数料¥840含む)	¥205,575-
鎌倉からの女川町支援「女川カレープロジェクト」	¥10,400-
手づくり品の店 朋（被災地の障害者就労支援）	¥6,948-
ふれいす（被災地を含む障害者就労支援）	¥7,500-
チラシ一千部印刷費、切手、展示用備品、販売品梱包材	¥12,777-

謹 啓

初冬の候、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびは、震災孤児等への支援のための寄附をお寄せいただき、福島県民を代表して心から御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金につきましては、今後、検討、構築する支援事業により、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援していくために、有効に活用させていただきます。

福島県は、地震と津波で多くの尊い命、財産を失い、さらに原発の事故、風評被害を加えた「四重苦」が現在も続いています。

こうした中、県民が一丸となって必死にこの難局に立ち向かっています。

復旧、復興には長い時間が必要になるかもしれませんが、「新生ふくしま」に向け、一歩一歩力強く、粘り強く歩んでまいります。

今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

このたびの温かい御厚情に対し、略儀ながら書中をもって御礼申し上げますとともに、皆様のますますの御発展をお祈り申し上げます。

敬 具

代表 河合 りえ子 様

平成23年12月

福島県知事 佐藤 雄平

福島県財務

納入通知書・領収書

〒248-0006
納入義務者 神奈川県鎌倉市

小町3-12-3

アトリエ・ラ・プリマヴェーラ

代表 河合 りえ子 様

下記の金額を最寄りの福島県指定金融機関(収納代理金融機関)に納付してください。

発行年月日 平成23年12月16日
発行者 福島県知事



金額 ¥204,735 円

発行元 自立支援総室

納期限 平成23年12月16日

課税区分	執行機関	年度	調定番号	納付目的
01	21035	23	00358	東日本大震災 ふくしま子ども 寄附金
会計	科	目		
01-14080400001010				

上記の金額を領収しました。

金融機関収入済印



県(公所)-納入義務者(返納者)-金融機関-納入義務者(返納者)

第二回鎌倉アート・クラフト市

そして思うこと:



3月11日の震災が起きた日は、被災地は春とはいえ小雪が舞う寒い季節でした。あれから8ヶ月以上が過ぎ、季節は春が訪れ夏が過ぎ秋になり、そして再び寒い冬がやって来ました。季節は変わりゆきますが、家族や友人を失い、家や仕事を失い、ふるさとを失い…、そんな極限の中を堪え忍び、一日一日を必死に生きているたくさんの人々がいます。生きなければならないという苦しみと同時に、大地に立って生かされているという有難さ、私はたまたま被災に遭いませんでしたが、日々の生活の中で時折、「生きる」という意味を自分に問いかけるようになりました。

人はどんな困難の中にも、生きて前を向いていくという、強さと知性を授かっているのでしょうか。やはりひとりひとりに、尊い光があるのだと思います。

遺伝子の研究をしている脳科学者の村上和雄さんが、この大震災について語られています。私たちの遺伝子の暗号を書き込んだ偉大な力、それは全部の生き物の、もとのもとの親のようなもので、従って今回の災害も、何かその親からのメッセージがあるのではないかと述べられています。

私たちは「地球に優しい」とよく言われますが、そうではなくてその逆で、「地球生命体が優しい」から、人間のわがままをこの程度許してくれているのではと。日本人はここ2000年くらい、大自然を敬い、人々が助け合って生きてきました。最近それが薄れてきた。そしてこの大震災で、人智を超える世界があることを知りました。それに対しての強烈なメッセージで、私たちのもとのもとの親が痛切な叫びを發したのではないかと。そのもとのもとの親は、私たちを生んだ親ですから、私たち子にどんな事を与えても悪くするはずはなく、この震災の事も、私たちの未来を守ったり、愛してくれる為に起きた事で、そのメッセージを今ちゃんと受け止める事が必要なのではないでしょうか、という事ですね。

この地球生命体の子として、世界はつながっている、ましてや空も大地も東北の人たちと私たちはつながっている、そんな気持ちを新たに致しました。

悲しみや悔やみばかりに目を向けていては、力は湧いてきません。

また私ひとりでは何も事を成せません。

でもひとりひとりの♥ & エネルギーを合わせれば、

必ず人々の笑顔へ、明日への希望へとつながる事と思います。

困難の中にいる方々が、この冬を少しでも温かな気持ちで過ごしていただけますようお願いしながら、初回そして第二回で得たたくさんの方々のお力を、次回の実りある元気な鎌倉アート・クラフト市につなげてゆきたいと思います。

感謝を込めて、

Atelier la Primavera Porcelain Art

アトリエ・ラ・プリマヴェーラ

河合りえ子